



東京歯科大学広報



病院見学後の記念写真：カナダ、ミゼリコルディア病院

平成24年度Elective Study

■カナダ・アルバータ大学における Elective Study

カナダのUniversity of Alberta (U of A)において、「Elective Study」が平成24年8月17日(金)から8月25日(土)の日程で、第4学年から第6学年生7名の参加のもとに開催された。本プログラムは初めて鹿児島大学と合同で行われたもので、歯学のみならず、カナダの大自然、天然資源、環境保全、教育システムなどを包括的に学ぶ計画が

立てられた。

8月18日(土)の歯学研修にはMisericordia病院iRSMを設定し、ProsthodontistのOsswald先生から、PCを用いたReconstruction Techniqueと3D Printerを駆使した顎顔面再建の最先端を学ぶことができた。Osswald先生の熱のこもったLectureは、学生たちにチーム医療の在り方と常に学び続ける姿勢の大切さを示し、学生たちも皆、この研修から将来の展望について考える機会

2012年8・9月

256号

本号の主な内容

- ・平成24年度Elective Study..... 1
- ・第44回全日本歯科学学生総合体育大会夏期大会開催 4
- ・直井友紀さん(第2学年)が「第5回IBAF女子野球ワールドカップ」で史上初の3連覇に貢献..... 20
- ・延世大学校歯科大学との学生交流..... 26

を得たようだ。

翌日から鹿児島大学との合同研修に参加し、U of Aの先住民学、教育学、農林水産学のLectureを受けると同時に、世界最先端の廃棄物処理施設であるWaste Management Centre、アルバータの歴史と自然について学ぶRoyal Alberta Museumなどを見学した。また、CalgaryのDiamond Gas Management Canada Ltdを訪問し、天然ガス採掘における日本企業の活躍について伺うことができた。

もちろんカナダといえば大自然であり、Drum-



3D Modelを用いた研修風景：カナダ、ミゼリコルディア病院



Osswald先生の腓骨移植を用いた顎骨再建に関する講義：カナダ、ミゼリコルディア病院



Dinosaur Hallにて恐竜の化石に驚嘆：カナダ、アルバータ州ドラムヘラーのRoyal Tyrrell Museum

hellerのRoyal Tyrrell Museumで恐竜の化石に触れ、Banff国立公園で氷河湖見学を、さらにはCanmoreのログハウスでBBQを楽しんだ。

学生たちは研修テーマが他分野であっても常に積極的な姿勢をみせ、口頭試問で鍛えられた弁舌でU of Aの教授陣に多くの質問を繰り返していた。また鹿児島大学との学生交流にリーダーシップを発揮して、多くの友人を得たようである。視野を広げるという意味でも、かけがえのない旅になったことは疑いようがないことと思う。

引率・松永 智(解剖学講座・講師)



レイク・ルーズにてカヌーで学生交流：カナダ、Lake Louise



コロンビア大氷原にて記念写真：カナダ、Columbia Icefield



バイソンのステーキを思う存分食する学生たち：カナダ、Banff

- アルバータ大学Elective Study参加学生 7名
 飯田雄太(6年) 覺本貴仁(6年)
 崔 大煥(6年) 大竹智久(5年)
 大津雄人(5年) 明石良彦(4年)
 齊藤友護(4年)

■台北医学大学におけるElective Study

姉妹校である台湾の台北医学大学において、「Elective Study」が平成24年8月18日(土)から24日(金)の日程で、第1学年から第3学年生の各2名、合計6名の学生参加のもとに開催された。国際渉外部が立案およびコーディネートをした「Elective Study」プログラムの目的は、海外の大学での施設見学、学生交流などを行うもので、東京歯科大学では昨年に引き続き2回目の試みであった。参加メンバーに関しては、各学年前年度の成績が上位35名に参加資格が与えられ、希望する学生が集められた。今年は2回目ということもあり、希望者に対し昨年の台北医学大学における研修の様子をスライドで説明し、昨年度参加学生の感想をまとめた冊子などを閲覧させた。台北医学大学側でも東京歯科大学の学生の研修を補佐してくれる学生が集められ、今年は現第4学年生8名が事前に決定した。出発前に東京歯科大学側の学生6名を集め、話し合いの場を設けた。第1学年から第3学年生は、まだ歯科医療の専門教育を受けていないため、「歯学部学生として積極的に海外の歯科事情へも目を向けるグローバルでアカデミッ

クな意識を獲得する。」を目標とし、「台湾における歯科臨床体系の概要を説明する。」「台湾における特徴的な疾病とその対処、治療の概要を説明する。」「台北医科大学の学生と英語、日本語などでコミュニケーションをとり、情報交換を行う。」といった行動目標を周知した。これらは台北医学大学の学生にも伝えた。

研修先としては昨年同様、台北医学大学付属病院、関連病院であるShuang Ho病院、台南の関連病院CHI MEI MEDICAL CENTERを設定していただいた。連日レクチャー、見学などを通して台湾における歯科臨床の実際に接することが出来た。また、歓迎会、送別会などを台北医学大学主催で催していただき、学生間の十分な交流の場を持つ事ができた。さらに台湾の歴史探索を目的に数ヶ所の名所を見学した。

台北医学大学側の学生の中に昨年に引き続き研



連日午前中のスタートに行われた、講義と両大学の学生間の意見交換会



Shuang Ho病院の先生方との記念写真

修補佐役を引き受けてくれた学生がいて、今年はリーダーとなって全体を先導してくれた。また各研修先も東京歯科大学のElective Studyの趣旨が周知されており、昨年何回も見られた混乱も今年は無事と非常にスムーズな7日間であった。よって、学生は毎日充実した環境で研修に取り組むことが出来たのではないかと感じた。この場を借りて台北医学大学の関係の先生方に感謝の意を



特別に見学が許された付属病院14階屋上にあるドクターヘリ・ヘリポートにて

表したい。

引率・阿部伸一(解剖学講座・教授)

○台北医学大学Elective Study参加学生 6名

- 中川結理(3年) 中野僚子(3年)
- 倉澤 馨(2年) 阪上隆洋(2年)
- 松浦信孝(1年) 真鍋 優(1年)



学生交流：台北医学大学のキャンパスにて

第44回全日本歯科学生総合体育大会夏期大会開催

第44回歯学体は、鹿児島大学歯学部が事務主管となり、平成24年8月1日(水)から8月13日(月)まで九州地方を中心に猛暑の中、連日各地で熱戦が繰り広げられた。

本学からは、20部門356名の部員が大会に参加した。

水泳部、硬式庭球部が優勝に輝き、硬式野球部が準優勝、ボウリング部と少林寺拳法部が3位となった。

■第44回歯学体総合成績

第44回全日本歯科学生総合体育大会は、総合得点114.5点を挙げて29歯科大学歯学部のうち総合4位を果たした。

■第44回歯学体入賞部門 順位

水泳部	総合優勝
	男子団体優勝
硬式庭球部	総合優勝
	男子団体優勝
	女子団体準優勝
硬式野球部	総合準優勝

ボウリング部	総合第3位
	団体第3位
少林寺拳法部	総合第3位
サッカー部	総合第4位
陸上競技部	総合第4位
バレーボール部	総合第5位
	女子団体第5位
剣道部	総合第5位
弓道部	総合第6位
	女子団体第5位
	男子団体第6位
スキー部	総合第6位
ゴルフ部	総合第7位
	女子団体優勝

■各部門で学生が活躍

水泳部	
女子100M	バタフライ 第7位
	鬼谷 薫(6年)
女子400M	自由形 第5位
	鬼谷 薫(6年)
女子400M	自由形 第7位
	野末雅子(5年)

男子50M 自由形 第5位 中澤和真(4年)
 男子100M 自由形 第5位 中澤和真(4年)
 男子50M 自由形 第3位 白取佑智(4年)
 男子100M 背泳ぎ 第5位 白取佑智(4年)
 男子200M 自由形 第2位 加藤禎彬(3年)
 男子800M 自由形 第1位 加藤禎彬(3年)
 男子50M バタフライ 第4位
 西村達郎(3年)
 男子200M 個人メドレー 第4位
 西村達郎(3年)
 男子50M バタフライ 第6位
 相馬章人(3年)
 男子100M バタフライ 第4位
 相馬章人(3年)
 女子200M 個人メドレー 第6位
 高橋 彩(3年)
 女子100M バタフライ 第6位
 藤森香菜子(3年)
 男子200M 自由形 第5位 金澤康道(2年)
 男子800M 自由形 第4位 金澤康道(2年)
 男子100M 平泳ぎ 第3位 齋藤 伸(2年)
 男子200M 平泳ぎ 第1位 齋藤 伸(2年)
 女子100M 背泳ぎ 第8位 佐藤 令(2年)
 女子200M 背泳ぎ 第3位 佐藤 令(2年)
 女子50M 背泳ぎ 第3位 林 優希(1年)
 女子100M 背泳ぎ 第2位 林 優希(1年)
 男子200M 個人メドレー 第7位
 古田洋平(1年)
 男子200M メドレーリレー 第2位
 白取佑智(4年)・加藤禎彬(3年)
 西村達郎(3年)・齋藤 伸(2年)
 男子200M フリーリレー 第1位
 白取佑智(4年)・加藤禎彬(3年)
 西村達郎(3年)・齋藤 伸(2年)
 男子400M メドレーリレー 第1位
 白取佑智(4年)・加藤禎彬(3年)
 西村達郎(3年)・齋藤 伸(2年)
 男子800M フリーリレー 第1位
 加藤禎彬(3年)・西村達郎(3年)
 金澤康道(2年)・齋藤 伸(2年)
 女子200M メドレーリレー 第5位
 鬼谷 薫(6年)・野末雅子(5年)
 藤森香菜子(3年)・林 優希(1年)

女子400M フリーリレー 第7位
 鬼谷 薫(6年)・野末雅子(5年)
 藤森香菜子(3年)・林 優希(1年)

硬式野球部

ベスト9 一塁手 大津雄人(5年)
 ベスト9 三塁手 阿南康太(1年)
 敢闘賞 大津雄人(5年)
 盗塁王 勝田将崇(4年)

ボウリング部

団体 第3位
 明石良彦(4年)・江黒友悠(4年)
 掛川 佑(4年)・木村慎一(4年)
 ダブルス戦 第6位
 江黒友悠(4年)・木村慎一(4年)
 オールイベント戦 第4位 江黒友悠(4年)

少林寺拳法部

審判賞・ペア
 大石綾香(4年)・秋山みなみ(2年)

サッカー部

得点王 荒川雅弘(5年)

陸上競技部

男子 3000MSC 優勝 大矢恭太郎(6年)
 男子 5000M 準優勝 大矢恭太郎(6年)
 男子 1500M 第3位 大矢恭太郎(6年)
 男子 200M 第6位 木村翔馬(6年)
 女子 やり投げ 第3位 松本亜弓(6年)
 男子 800M 第3位 谷口修一郎(3年)
 男子 5000M 第3位 谷口修一郎(3年)
 女子 100M 第2位 永井里歩(3年)
 女子 200M 第2位 永井里歩(3年)
 男子 4×100Mリレー 準優勝
 河合章太(6年)・木村翔馬(6年)
 谷口修一郎(3年)・二階堂純彦(1年)
 男子 4×400Mリレー 優勝
 河合章太(6年)・木村翔馬(6年)
 谷口修一郎(3年)・二階堂純彦(1年)
 女子 4×100Mリレー 準優勝
 松本亜弓(6年)・永井里歩(3年)
 鷲巣友衣子(2年)・熊本亜津沙(1年)

剣道部

男子個人戦 弐段以上の部 優勝
 和田 朗(5年)
 女子個人戦 第3位 神坂雪乃(1年)

スキー部

男子個人大回転競技 優勝 木村翔馬(6年)

男子個人スーパー大回転競技 優勝

木村翔馬(6年)

弓道部

女子個人 第6位 富樫 悠(3年)

女子個人 第9位 小林佐穂(4年)

ゴルフ部

女子個人 準優勝 進藤久留美(2年)

女子個人 第7位 新行内 恵(3年)

柔道部

男子81kg級 第3位 米山瞬輔(6年)

空手道部

新人戦 優勝 芳村竜秀(2年)

体育大会というとても大きな行事の運営に関わることで各大学の方と知り合いができ、仲良くなり、一層歯科という世界の横のつながりの大切さを感じました。また他の大学の方との話していると他の大学の方が、東京歯科大学の国家試験での成績や卒業後の活躍・伝統などとても興味を持っていて、東京歯科大学はいい大学なんだという誇りを持つことができました。大会の運営に関しても、会議や報告など沢山発言の場を持たせていただき、将来自分が歯科医師となり社会に出たときに大きな糧になると思います。

この役職に就かせてくださり、ご支援してくださった先生方、教職員の方、関係者の方、本当にありがとうございました。

■第44回歯学体・歯学体評議員を終えて

渡辺知明(4年)

評議員になり2年間が過ぎ、今夏のデンタルにて無事評議員を務め上げることができました。今回この2年間、評議員を務め全日本歯科学学生総合

■来年は、東京を舞台に

平成25年度の第45回大会は、日本大学歯学部事務主管により、東京を中心に開催される予定である。

■歯学体スナップ



水泳部門 名門復活2連覇を達成：平成24年8月8日(水)、千葉国際総合水泳場・千葉県



硬式野球部門 味方の長打にベンチも盛り上がる：平成24年8月3日(金)、サンピア福岡・福岡県



硬式庭球部門 力強いリターンエースを決める：平成24年8月1日(水)、長生郡白子町テニスコート・千葉県



ボウリング部門 見事な投球でストライク：平成24年8月5日(日)、博多スターレーン・福岡県



少林寺拳法部門 息の合った見事な「型」を披露する：平成24年7月29日（日）、東京歯科大学体育館・千葉県



剣道部門 一本、電光石火の「面」がさく裂：平成24年8月10日（金）、江戸川区スポーツセンター・東京都



サッカー部門 華麗なステップで相手ディフェンダーをかかわす：平成24年8月5日（日）、県立吹上浜海浜公園サッカー場・鹿児島県



弓道部門 静から動、精神統一で心を鎮める：平成24年8月6日（月）、県総合体育センター武道館・鹿児島県



陸上競技部門 大会終了後、練習で日焼けした最高の笑顔で記念写真：平成24年8月5日（日）、瑞穂陸上競技場・愛知県



スキー部門 競技終了後、笑顔で記念撮影：平成24年3月19日（月）、かたしな高原スキー場・群馬県



バレーボール部門 選手全員で集中して相手の攻撃を見極める：平成24年8月9日（木）、県立総合体育館・熊本県



ゴルフ部門 紳士・淑女のスポーツ、女子団体優勝：平成24年8月9日（木）、いぶすきゴルフクラブ・鹿児島県



ヨット部門 ハーバーから大海原の戦場へ向かう：平成24年8月2日（木）、福岡市立小戸ヨットハーバー・福岡県



空手道部門 新人戦で優勝した芳村君（2年）と空手道部員：平成24年8月4日（土）、九州歯科大学体育館・福岡県



バドミントン部門 勝利を目指して一球入打：平成24年8月5日（日）、北九州市立総合体育館・福岡県



卓球部門 大会を終えて部旗を前に笑顔で記念撮影：平成24年8月10日（金）、県立総合体育館アリーナかぶとがに・長崎県



柔道部門 男子81キログ級で3位に入賞した米山君（6年）：平成24年8月5日（日）、県立総合体育館・長崎県



軟式庭球部門 笑顔の表彰式：平成24年8月4日（土）、彩の国くまがやドーム・埼玉県



バスケットボール部門 全員攻撃、全員守備で勝利を目指す：平成24年8月4日（土）、姶良市大楠アリーナ・鹿児島県

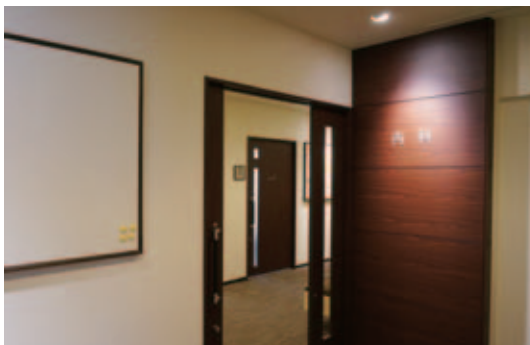


フットサル部門 華麗なボレーシュートでゴールを狙う：平成24年8月11日（土）、RAMOS FIELD INDOOR FUTSAL・東京都

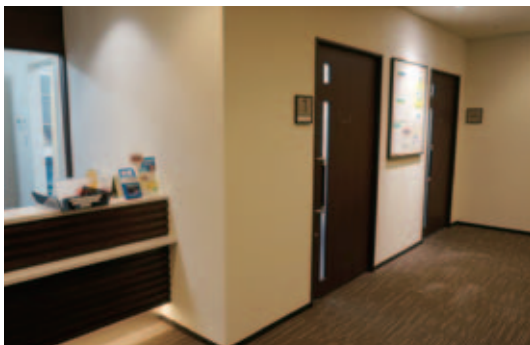
水道橋キャンパスニュース

■水道橋病院新内科診療室オープン

水道橋病院の新内科診療室が、平成24年8月13日（月）よりオープンとなった。従来、内科診療室は別館3階に配置されていたが、今般5階のロビースペースを改修し、移設したものである。新しい内科は2つの診療室、処置室、内視鏡室で構成されており、今後より充実した診療を展開することが期待されている。



水道橋病院5階内科入口



水道橋病院5階内科

■水道橋病院車椅子・ストレッチャー用スロープ完成

平成24年9月5日（水）、水道橋病院の西側車路に、車椅子およびストレッチャー通行用のスロープを新設した。スロープは病院1階の総合受付に直結しており、車椅子で来院された患者さんが、より安全かつスムーズに通行できるよう改善された。また、エレベーターからも距離が近く、より効率的にストレッチャーの搬出入等に対応できるようになった。



水道橋病院車椅子・ストレッチャー用スロープ



水道橋病院1階総合受付へ

■水道橋新館校舎（仮称）建設工事現況



平成24年8月31日現在



平成24年9月28日現在

■准教授就任のご挨拶



解剖学講座

坂 英 樹

この度平成24年8月1日付けで解剖学講座准教授を拝命いたしました。平成2年に大学院歯学研究科で解剖学を専攻して以来、23年の間に御支援、御協力頂きました大学関係者、解剖学講座OBの先生方ならびに周囲の皆様には心より御礼申し上げます。

解剖学は医学教育の根幹であり、医療人となるためには最も基礎となる学問です。解剖学講座は上條教授始め、井出現学長、現在の阿部教授に至るまで、この医療の基礎となる解剖学、特に口腔解剖学を中心として、教育・研究の両面で常に歯科界をリードしてきました。この伝統のある講座の准教授就任は、非常な重責を担うことになったと身が引き締まる思いを感じる毎日です。

近年は国家試験問題の難易度が年々増してきて、臨床実習中の学生への教育がクローズアップされてきています。昨年度には、その当該学生に

対しての教育に当たり、2-4年次で習得した知識が欠落している傾向があると思われました。平成23年度の国家試験合格率は、当大学は幸い全国歯科大学の中で好結果を得ることができました。これは教員、職員の方々の努力の賜物ではありますが、現状は全く安心できる状況ではないことを実感しました。今後も基礎科目としての解剖学のみならず、臨床実習を通じて得られる臨床上の様々な知識に合わせて、その裏付けとなる基礎医学に対する勉強意欲への意識付けを重点におき、第5学年に対する教育にも熱意を持って取り組みたいと考えています。

研究面においては、大学院時代から現在に至るまで、小児顎骨を試料として、乳歯と後継永久歯との関係を中心とした顎骨内部構造の解析を行ってきました。これからも引き続き、未だ不明な点が多い歯の交換期の内部構造について三次元的な解析を行いたいと考えています。

教育・研究は独りでなく、講座、大学のスタッフと協力し合い成立するものです。グローバルな視点を持ち、講座内でのより良い環境構築に努め、講座および大学の更なる発展のため努力する所存です。

今後とも皆様からの御指導、御鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



千葉病院総合診療科

亀 山 敦 史

このたび平成24年8月1日付で、千葉病院総合診療科の准教授を拝命いたしました。旧保存修復学講座在籍時代の平成19年2月に千葉病院総合診療科における臨床研修指導の兼務を命ぜられ、以来歯学部学生に対しては保存修復学を中心とした講義、実習を担当しつつ、臨床研修歯科医に対しては一般歯科臨床を通じた実地指導に従事しております。

私が学生だった頃、保存修復学で習ったのはG.V. Black先生の教えをもとにしたものでした。当時はまだアマルガム修復も直接金修復も実習項目に組み込まれていた時代です。コンポジットレジン修復窩洞にも保持形態が必要だと指導を受けましたし、コンポジットレジンには歯髄為害性があるから歯髄保護を併用すべきだと習いました。まだ当時はコンポジットレジン对白歯部に用いるのは耐摩耗性の問題から好ましくないと教わった時代です。今はどうでしょう？修復物の保持や予防拡大といった概念は接着性修復には必要なく、むしろ保持形態を付与するとレジンの重合収縮応力の影響を受けやすいと教えるようになりました。ボンディングレジンには歯髄保護効果が高いからという理由で、間接修復の窩洞形成時にはレジンコーティングを行いなさいと指導するようにな

りました。たとえ臼歯部咬合面でも、齲蝕に感染したところだけを丁寧に除去して、接着性材料で低侵襲的に、そして審美的に機能回復すればよいと教育しています。このように、保存修復学の根幹をなしていた概念は器材の進歩によって大きく変わりました。しかし、それらは決してBlack先生の教えを全否定するものではありません。

「温故知新」という言葉がありますように、歴史的な積み重ねが次世代の科学的発展につながり、

それが臨床に還元されていきます。私は教育者として、これまでの歯科医療の発展をもとに、今の歯科医療に何が求められるのかを伝え、研究面では時代的背景を踏まえた次世代の歯科臨床の発展に寄与して参りたいと考えております。そして、日々発展する歯科医療技術に遅れを取らないよう、臨床家としての研鑽も積んでまいりたいと思っております。今後とも御指導、御鞭撻のほどよろしくお願いたします。

学内ニュース

■平成25年度臨床研修歯科医のための病院説明会開催

平成25年度臨床研修歯科医のための病院説明会が、平成24年7月5日(木)午後6時より、千葉校舎第2教室において、8月4日(土)午後1時より水道橋校舎13階にて各々開催された。

本説明会は千葉病院、水道橋病院、市川総合病院の三病院合同で年2回開催されている。7月5日(木)は本学の学生を対象に、8月4日(土)は他大学の学生を対象に本説明会を行い、総計241名の参加があった。

説明会は千葉病院、水道橋病院、市川総合病院の順に各病院の臨床研修プログラムの特色・概要を説明し、その後、高橋俊之臨床研修委員長より9月9日(日)実施の三病院合同で行う臨床研修歯科医選考についての説明を行った。

臨床研修歯科医選考の説明後、希望者に対して、本学に協力している臨床研修施設のうち、管理型臨床研修施設として独自の研修プログラムを作成したつがやす歯科医院、Uクリニック五十嵐歯科、医療法人社団八龍会すずき歯科医院、医療



各施設からの説明を真剣に聞く参加者：平成24年7月5日(木)、千葉校舎第2教室

法人社団歯友会ファミリー歯科、医療法人社団彰美会吉本矯正歯科、医療法人社団涉仁会佐々木歯科・口腔顎顔面ケアクリニック、こばやし歯科クリニックより、各施設の説明を行った。

最後に、各施設で個別質問の時間を設け、参加者からの質問に応じて説明会は無事に終了した。



臨床研修歯科医選考について説明する高橋臨床研修委員長：平成24年8月4日(土)、水道橋校舎13階

■東京歯科大学千葉病院医療連携講演会開催

平成24年7月19日(木)午後3時より、千葉校舎第5教室において「東京歯科大学千葉病院医療連携講演会」が開催された。本講演会は、千葉県歯科医師会、千葉市歯科医師会、習志野市歯科医師会、印旛郡市歯科医師会、市原市歯科医師会、八千代市歯科医師会、船橋歯科医師会、江戸川区歯科医師会の協力のもと、地域の歯科診療所と千葉病院との連携強化を目的として開催している。内容は午後3時からの講演会部門、午後6時10分からの懇談会部門の2部構成となっている。

一般講演の演題は、毎年、千葉県歯科医師会および近隣歯科医師会の代表委員と千葉病院の医療連携委員で構成されている医療連携協議会で決定

し、講演を行っている。

※今年度の演題および演者

【一般講演】

1. 「歯科インプラント治療における合併症」
 - (1) 「外科的合併症について」
口腔インプラント学講座 講師 古谷義隆
 - (2) 「上部構造製作に関して」
口腔インプラント学講座 講師 本間慎也
 - (3) 「インプラント周囲炎に対する対応」
口腔インプラント学講座 講師 伊藤太一
2. 「実践!訪問診療における口腔のケア」
摂食・嚥下リハビリテーション・
地域歯科診療支援科 講師 大久保真衣

【新しい専門外来の紹介等】

1. 「急性期神経機能修復外来」
口腔外科学講座 教授 柴原孝彦
2. 「顎顔面補綴外来」
有床義歯補綴学講座 講師 石崎 憲
3. 「悪性腫瘍患者への画像診断的アプローチ
－放射線科における特殊検査とこれからの
展開－」
歯科放射線学講座 助教 神尾 崇
4. 「ドライマウス外来・味覚異常外来・歯科金
属アレルギー外来」
臨床検査病理学講座 講師 村上 聡
5. 「セカンドオピニオン外来」
歯科矯正学講座 准教授 茂木悦子
6. 「唇顎口蓋裂外来」
口腔外科学講座 教授 内山健志

当日は100名を超える参加者を迎え、高野伸夫千葉病院長ならびに柴原孝彦医療連携委員長の挨拶から講演会が始まった。一般講演は各演題20～30分間の講演が行われ、発表後の質疑応答時には、日常診療における各種問題点の解決方法や治療に対する創意工夫について意見が交換された。新しい専門外来の紹介等では、各専門外来より10分間の講演が行われ、千葉病院の各専門外来の概要や特色について説明がなされた。休憩時間中には、参加者からの症例相談に応じる症例相談コーナーを設け、各症例に対し医療連携委員が対応した。

引き続き、厚生棟1階の食堂にて懇談会が開催

され、医療連携・症例相談等各話題について歓談が続いたが、午後8時に名残惜しい雰囲気を残しつつ散会となり、医療連携講演会は無事終了した。



挨拶をする高野千葉病院長：平成24年7月19日（木）、千葉校舎第5教室



演者に質問をする参加者：平成24年7月19日（木）、千葉校舎第5教室

■入試ガイダンス開催

東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象として、入試ガイダンスが平成24年8月25日（土）と、9月30日（日）の両日午後1時より水道橋校舎本館13階で開催された。

ガイダンスでは、液晶プロジェクター・ビデオ等を用いて、東京歯科大学の教育理念や教育カリキュラム、国家試験合格状況、学生生活、卒業進路状況等、平成25年度入学試験の概要等について説明があった。

また、毎回異なる模擬授業が実施され、8月25日（土）には衛生学講座 杉原直樹准教授による「お菓子とむし歯の関係－なぜキシリトールはむし歯にならないのか？－」、9月30日（日）には解剖学講座 坂 英樹准教授による、「歯の神秘 ～その構造と機能～」と題した授業が行われた。授業は受験生にもわかりやすい内容で構成されており、参加者が大変熱心に聞き入っていた。

最後に希望者を対象に教務部・学生部の教職員との個人別相談、さいかち坂校舎と水道橋病院の見学が行われ、両日合わせて220名を超える参加があり、大盛況なガイダンスとなった。

次回のガイダンスは、12月15日(土)に水道橋校舎本館13階で、実施する予定である。



模擬授業風景：平成24年9月30日(日)、水道橋校舎本館13階ルームA

■平成24年度教育ワークショップ報告会開催

平成24年8月30日(木)午後4時より、千葉校舎教養棟第5教室において、平成24年度教育ワークショップ(報告会)が開催された。今年度は『水道橋移転に伴うコミュニケーション学の検討』『学生サポート体制の構築』の2つをテーマとし、石井拓男副学長の挨拶で開会された。まず、石井副学長からの挨拶においては、水道橋移転の進捗状況の報告があり、今回のテーマについては移転後においても現状の水準・内容を維持し、ハード面の変化に対して発展的に取り組んでいただきたい旨説明があった。その後、河田英司教務部長の司会のもと、『水道橋移転に伴うコミュニケーション学の検討』については、総合診療科の高橋俊之准教授、『学生サポート体制の構築』に関しては、解剖学講座の阿部伸一教授を委員長とするワーキンググループにより検討を重ねてきた結果について、発表および質疑応答が行われた。

『水道橋移転に伴うコミュニケーション学の検討』について、今まで実践してきた「6年一貫したコミュニケーション教育」の一般目標「診療参加型臨床実習を円滑に実施するために、コミュニケーション・医療面接の基本的な知識・技能・態度を習得する」を念頭におき、①各講座・科で独自に実施されている、統合可能な項目をコミュニケーション学に含め、より高度な統合型を目指して行

く②課題実施に際し、各講座・科で独自に実施するよりも人的負担を少なくする③現行の教育水準・内容を維持する、という3つの点について検討を行った旨報告があった。

その結果、水道橋病院において実施する1年生前期病院見学、2年生前期患者体験・健診記録実習、2年生後期患者誘導実習は診療に支障をきたすことなく実施可能な方策を検証し、また、2年生前期患者体験・健診記録実習と2年生後期患者誘導実習は、2年生の前期に同時平行で実施することとし、介護施設と連携し実施する3年生後期の高齢者とのコミュニケーション実習については、従前通り衛生学実習の中に組み込み、新たな実習施設を水道橋近郊に定め実施可能となった旨説明があった。

そして、2年生後期コミュニケーショントレーニングについては、実施場所の変更のみで内容等に関しては現在のものを踏襲した形で実施可能であり、3年生後期コミュニケーション技法・医療面接実習、4年生後期コミュニケーション技法・医療面接実習(SPセッション)については、担当教員やシナリオ等について若干の見直しを行うことで実施可能であることが検討され確認することが出来た旨説明があった。

最後に、既に各講座・科で単独で実施されている医療面接・説明系の課題を新たな合同実習として4年生前期に設ける(新たなコミュニケーション学Ⅳ)ことについては、各委員や該当各講座・科の先生方に多大な努力をいただき、実施可能となった旨説明があった。

『学生サポート体制の構築』については、ここ数年、全国的に最低修業年限で歯科医師国家試験に合格する割合は低下の一途をたどっており、また、各大学歯学部における留年生の数も増加している。そして、本学においても昨年度、最低修業年限で歯科医師国家試験に合格した学生は80%に満たなかったことについて説明があり、80%を達成し維持するためにはどのような学生サポート体制が必要であるかについて話し合ってきた経緯について説明があった。

まず、本学での1年生～4年生までの学生サポートを検証し、現状の学生サポート体制を発展させた形で、再構築する必要性を委員一同が認識し、一般目標を「最低修業年限で国家試験に合格させ

るために、特に下位学生を対象とした学生サポート体制を強化・再構築する」として行動目標を設定し、また、4年生までは学業だけでなく、クラブ活動も重要であることから、「勉学とクラブ活動を両立し、生活の一部として勉学を継続するモチベーションを維持させる」ことを目標の一番目に置き、勉強の習慣、やり方を教員が個別にチェックし、自己学習資料を定期的に見直しして、学生の知識を維持させていくシステムの確立が必要な旨説明があった。

これらの取り組みの中で、成績上位学生も教育に参加してもらい、下位学生の勉学支援を行い、相互に学力向上を図れるグループ学習法を確立することで、苦手科目が克服できているか、それら学習到達度を確認することができる旨説明があった。

最後に今後の方略として、①初年次での、学力別のクラス編成・選択授業の導入や学習方法の指導を含めた補習の強化②学生サポート体制を強化するための“学生サポート委員会”の発足③カリキュラム内でのホームルーム・自主学習のための枠の確保④下位学生が作成したポートフォリオ・自己学習資料（ノート、資料、教科書からの抜粋など）を学生サポート委員会の教員が定期的に確認するなどの提案がなされた。

各ワーキンググループの発表後、河田教務部長より「最低修業年限での国家試験合格率（文科省：医学教育課より）」の資料を配付し、今回の発表でもあったように最低修業年限での国家試験合格率80%の達成を目指し、中期的に90%を目指して行くために、①学生サポート体制の強化②合格基準の引き上げの必要性について説明があった。



『水道橋移転に伴うコミュニケーション学の検討』について発表する三穂乙晁助教：平成24年8月30日（木）、千葉校舎第5教室

昨年度に引き続き、テレビ会議システムを利用して、市川総合病院・水道橋本館校舎を結び、教職員やティーチングアシスタント等約160名もの出席者が参加した。

最後に柳澤孝彰副学長より、閉会の辞において、今回の報告会で意見交換をされた内容をふまえ、実施に向けて、教務部とワーキンググループを中心に全学的な協力体制の依頼があり、午後7時過ぎ盛会の内に終了した。



質疑応答風景：平成24年8月30日（木）、千葉校舎第5教室

■平成24年度市川総合病院防災訓練実施

市川総合病院では平成24年9月10日（月）に、建物設備等の点検及び自衛消防訓練（通報・避難等訓練）が実施された。

まず、午後1時30分より、栄養管理室前広場において、消火器及び屋内消火栓取り扱い訓練が市川市西消防署員指導により行われ、続いて午後2時30分から大規模な地震が発生した際の防災センターへの通報訓練が行われた。

午後3時からは、火災発生を想定した屋内消火栓取り扱い訓練及び通報・避難訓練が7階東病棟を発火場所として行われた。患者様の安全を確保



消火栓取り扱い訓練：平成24年9月10日（月）、市川総合病院栄養管理室前広場

するための初期消火活動から実際に模擬患者等を設定して実践さながらの避難・誘導訓練が行われ、最後に消防署員より講評をいただいて終了となった。



病棟における避難訓練風景：平成24年9月10日（月）、市川総合病院7階東病棟

■平成25年度科研費公募要領等説明会開催

平成24年9月19日（水）午後6時より、千葉校舎第2教室において、「平成25年度科研費公募要領等説明会」が開催された。毎年、この時期に文部科学省・日本学術振興会主催の公募要領説明会が開催されており、本学では、この説明会の報告を行うとともに、次年度の科研費申請に向けての注意事項、研究費の使用ルール等を本学の研究者に周知させるため、毎年この時期に開催している。

説明会は、まず、研究部長・水口 清教授より、教授会で「科研費に関する研究部委員会」が発足し、科研費の応募資格のある歯科系教員は全員科研費を申請することが求められたこと、今回設置されたこの委員会の委員を中心として、各研究者から提出された研究計画調書のブラッシュアップを行うことの説明があった。続いて、平成25年度科学研究費公募に関する注意事項等、また科研費の使用ルールについて、研究部と大会計課の担当者より説明があった。最後に、不正防止推進室から、不正使用防止の重要性についてあらためて研究者に理解を求めた。

当日は、市川総合病院、水道橋校舎へもテレビ会議システムで配信され、3校舎合計で119名の研究者が出席し熱心に説明に耳を傾けていた。

■第115回歯科医学教育セミナー開催

平成24年9月24日（月）午後6時より、千葉校舎第2教室において、第115回歯科医学教育セミナー

が開催された。今回は、「昭和大学歯学部 of 教育改革」と題し、昭和大学歯学部長の宮崎 隆先生をお招きし講演が行われた。

はじめに組織体系や施設面について、また経営面から見た昭和大学の現状について説明がなされた。

次に、教育面における昭和大学の取組みについて説明がなされた。現代・将来的な歯科医療のニーズを見据えた上で、「チーム医療」を主たる目的とし、コミュニケーションに重点を置いたカリキュラムや独自の取組について紹介された。初年次実習として医療系学部合同で1年間の寮生活を通して学ぶシステムや、各医療系学部学生が一つのグループを形成し、実際の医療現場において学ぶ学部連携病理実習といった医療系総合大学ならではの特色を生かしたものであった。また最先端の機材を導入し、より実践に即した授業が行なわれているとのことであった。

本学と共通する点以外にも、先進的かつ画期的な取組を実施していることを知る良い機会となり、刺激を受けることができた講演内容であった。



説明される宮崎先生：平成24年9月24日（月）、千葉校舎第2教室

■平成24年度第4回水道橋病院教職員研修会開催

平成24年9月24日（月）午後5時30分より、水道橋校舎13階ルームBにおいて、平成24年度第4回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、水道橋病院歯科放射線科の小林紀雄診療放射線技師長が「水道橋病院における放射線管理」と題して講演した。

病院における放射線検査の撮影者の被ばく管理は、「電離放射線障害防止規則」の規定に則り適切に運用する必要がある。小林技師長は、水道橋病院の診療室に新設されたX線撮影室において、撮

影者の被ばくに関する院内の管理ルールや被ばく量の記録法を説明し、ポケット線量計の使用法および使用上の注意点について解説した。

続いて、日立アロカメディカル株式会社の岡本健治氏より、同社製ポケット線量計の取扱いについてご説明いただいた。ポケット線量計はその構造上の特性から携帯電話等からの電波を放射線と誤認して計数することがあるため、これらの機器の近辺で使用するには十分注意しなければならない等、注意事項を詳細にご説明いただいた。

近年、福島第一原子力発電所における事故の影響もあり、放射線被ばくについての関心が高まっている一方、間違った知識が一部で広まっているのも事実である。今回の講演内容は、病院における正しい被ばく管理をあらためて確認する機会となり、大変有意義な研修会であった。



講演する小林診療放射線技師長：平成24年9月24日（月）、水道橋校舎13階ルームB

■第30回カリキュラム研修ワークショップ開催

平成24年9月29日（土）および30日（日）の2日間、水道橋校舎13・14階において、第30回カリキュラム研修ワークショップが開催された。本ワークショップは、歯科医師臨床研修制度における「歯科医師の臨床研修に係る指導歯科医講習会の開催指針」に則り、指導歯科医講習会としての認定を受け、一般財団法人歯科医療振興財団と共同開催したものである。

今回は、本学の専任教員および全国の歯科医院に勤務する歯科医師の合計40名が受講した。ワークショップは8つのセッションで構成され、講義、5グループに分かれての討議・発表を通じて、歯科医師臨床研修制度の概要、臨床研修の問題点の抽出と対応策の検討、段階的なカリキュラムの計画・立案等を習得し、指導医に必要なカリキュラ

ム開発能力ならびに研修歯科医を養成する指導力の向上を目指した。

最後に、受講者全員に東京歯科大学学長、歯科医療振興財団理事長および厚生労働省医政局長連名の修了証が授与され、2日間の日程を無事終了した。



発表後の質疑応答：平成24年9月30日（日）、水道橋校舎13階ルームB



受講者およびスタッフ：平成24年9月30日（日）、水道橋校舎13階ルームB

■千葉病院ロビーコンサート 午後のリサイタル

平成24年9月29日（土）午後2時30分より、千葉病院1階待合ロビーにおいて、初めての試みであるロビーコンサートが開催された。ロビーコン



ピアノを演奏される美由紀さんと愛佳さん：平成24年9月29日（土）、千葉病院1階待合ロビー

サートは、入院患者、外来患者、及び近隣の住民の方々へ音楽を通して和みの時間を提供することを主旨として発案された。

今回は、本学のジェレミー・ウィリアムズ准教授及びそのご家族であるウィリアムズ美由紀さん、ウィリアムズ愛佳さんによるピアノコンサートとして、クラシックの名曲やポピュラーなアニメソングなど、幅広いジャンルの演奏が行われた。

美由紀さんはプロのピアニストとして活躍されており、ウィリアムズ准教授、愛佳さんも多くのピアノコンサートや演奏会に出演されていることから、本コンサートの演奏者として抜擢された。

当日は、110名を超える方々が集まり、秋の午後を彩るピアノの演奏に耳を傾け、盛大かつ和やかにコンサートは終了した。

かにコンサートは終了した。



美由紀さんの手拍子に乗って、ピアノを演奏されるウィリアムズ准教授と愛佳さん：平成24年9月29日（土）、千葉病院1階待合ロビー

大学院ニュース

■第356回大学院セミナー開催

平成24年9月6日（木）午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第356回大学院セミナーが開催された。今回は、基礎教授連絡会からの推薦で慶應義塾大学法科大学院・医学部外科教授の古川俊治先生をお迎えして「今後の歯科・口腔外科診療と医療安全」と題した講演を伺った。

我が国の人口推移は2000年ごろをピークとして徐々に減少に転じた。なかでも14歳以下が総人口に占める割合は明らかに減少し、一方65歳以上高齢者の割合は年々増加している。2055年には高齢化率は40.5%に達すると推定される。ここで、高齢化社会を支える医療・福祉に必要な政府予算は債務超過が続き、欧州危機の中で非常に危機的であるとされる国々、イタリアなどとほぼ同じ政府債務残高が存在する。医療資源は日本では特に人口あたりの病床数、高度医療機器数が欧米に比しても非常に高いのに対し、医師数は少なく、在院日数は多いという状況となっている。従って、このまま財政を健全化させず現状の医療を提供することは困難であるので消費税が必要である。また、今年成立した消費税増税法案では増加する債務の増加率は下げるが、減少させるまでには不十分である。また、歯科医師数は欧米に比してやや多く、全体として過剰とみられている。平成10年5月には歯科医師の受給に関する検討会の報告書では新規参入歯科医師を10%程度削減

することが提言された。今後はより良い歯科医療を提供するには、歯科医師数を適正化し医師と連携した、高齢者在宅医療連携が必要となると考えられる。これは在宅介護者への口腔保健事業と合わせて整備することが計画されている。

医療従事者あるいは医療機関は医療行為にともなう結果としての法的責任を負う。医療過誤が発生した場合、それには大きくわけて民事責任と刑事責任がある。明白な過失が存在する場合は刑事責任を問われることもあり、行政処分の対象ともなる。この場合民間医療訴訟保険は対象外であるので、刑事訴訟費用は被告が負わなければならない。一方、過失の有無が微妙か医療水準として十分でなかった場合は示談、あるいは調停による解決(民事訴訟となることもある)が図られることになり、この場合は民間医療訴訟保険で対応可能と



講演される古川教授：平成24年9月6日（木）、千葉校舎第5教室

なる。近年の訴訟ではインプラント術における訴訟がクローズアップされており、これらの例を知り、質の高い歯科診療を提供、Evidenced-basedな日常診療とともに適切な患者への説明をすることが必要である。

■第357回大学院セミナー開催

平成24年9月20日(木)午後5時40分より、千葉校舎第5教室において、第357回大学院セミナーが開催された。今回は、臨床教授連絡会議からの推薦で本学を昭和44年にご卒業された安齋 勲先生をお迎えして「医療を取りまく社会の常識」と題した講演を伺った。

昨今、医療を巡り国民・患者よりの苦情・訴訟は年々増加の一途を辿り、それに伴い、保険医療機関の指定取り消し及び保険医等の取り消しも後を断たないと言われ、保険医療の不正請求、返還金もマスコミ等で紙上を賑わし、国民の厳しい目に晒され、医療界に対する不信任は看過出来ない問題とされてきている。先生は、長年社会保険医療協議会委員や医療審議会委員等の公職につかれて来られており、これまでご経験されてきた医療問題を事例等も挙げられ、医療に対する医療人としての考え方、その心構えを普段なかなか拝聴出来ないような貴重なお話を本学OBとして、これから巣立っていく大学院生に分かり易くお話下さった。先生の医療人としての哲学は、医師という職業は、“精神貴族”として恥を知り、誉れ高く、プライドを持ち、名誉を重んじるべき職業と考えられておられる事、そして医療人の持つべき教養には、単なる学識の事だけではなく武士道精神のような個人の価値観、行動も含まれており、近年医療の低迷が問われる背景にもいわゆる“教養”の



講演される安齋先生：平成24年9月20日(木)、千葉校舎第5教室

軽視・衰退があるのではないかとされ、さらに医療現場には惻隠の情のかけらも見られなくなってきていると嘆かれた。勿論、五常(仁・義・礼・智・信)・五徳(温・良・恭・儉・讓)を全て持ち合わせる事など不可能に近いが、若い後輩達に例えこの中の一言なりとも持ち合わせる心構えが、人として医療人として肝要であるとされ、そして本学の出身者が常に医療人としての鏡となるようこれからの後輩達に期待したいと締め括られた。

■第358回大学院セミナー開催

平成24年9月21日(金)午後6時より、千葉校舎第5教室において、第358回大学院セミナーが開催された。今回は本学客員教授でもある、西村一郎 UCLA教授を講師にお迎えし、「イノベーションと教育：UCLAの試み」と題した講演を伺った。

この講演は、第358回大学院セミナー講師のナディン・カリムバックス ハーバード大学准教授が西村教授の教え子であり、西村教室から多くの指導者を輩出していることから、教育について歯科学報に原稿を依頼したことがそもそものきっかけである。先生は、イノベーションの意味を説明する前にDNA構造の発見にまつわる科学者たち、クリックとワトソンをジェネラリストの例、ウィルキンズとフランクリンをスペシャリストの例として挙げ、どちらがイノベーションを起こし得たか、としてジェネラリストのクリック、ワトソン側だった、と説明された。ジェネラリストは世の中がどうなっているのか、あるいは何が必要かなどに対して常にアンテナを張り巡らしており、ある意味社交家でもある。何か専門的なことに格別秀でているわけではない。一方、スペシャリストは自分の領域において前人未踏な事象を日々追及している。理想的には一人の人間にジェネラリストとスペシャリストの両方の要素が兼ね備わっていることが望ましい。しかし両方の能力を備えることは困難であろう。歯科大学はスペシャリストを育てる機関であるが、絶えずジェネラリストとしての自覚を持っていることがイノベーションを起こせることに繋がるのではないか。自分はスペシャリストであると認識しているが、教授として様々な分野と連携して研究を展開しており、最近では1億8千万円の研究費を獲得し、新たなプロジェクトに着手した。東京歯科大学の

教えは“歯科医師たる前に人間たれ”である。これはまさに、ジェネラリストとスペシャリストの位置付けそのものであり、海外に在っても母校の精神が活動の源となっている、と話を結んだ。講演後はある大学院生から「なかなか思ったような結果がでないがどうしたらいいか」という質問があった。西村教授は、思うような結果すなわち仮説が証明されるのは3割程度であり、大事なことは思ったような結果でないところから何が考察されるか、そもそも仮説hypothesisとはhypo(下)とthesis(神の説)から成り立っている、仮説が証明されることは大事であるが証明されなかったことから生まれることもより大事である、と学生を励まされた。



講演される西村教授：平成24年9月21日（金）、千葉校舎第5教室

■第359回大学院セミナー開催

平成24年9月26日（水）午後5時40分より、千葉校舎第2教室において、第359回大学院セミナーが開催された。今回は東京大学大学院・理学系研究科・地球惑星科学専攻の多田隆治教授をお迎えして「地球の過去から未来を見据える」と題した講演を伺った。

本企画は、昨年からはまった歯科医療に無関係であるが、社会的に活躍されている方々のお話を拝聴し、大学院生活の参考にするとするものの一つである。

多田教授は、海や湖を掘削しその堆積物に残された過去の気候変動や海洋変動の記録を調べ、そのメカニズムを解明する研究をされている。

我々は一般的に自分の人生で経験してきた気候が正常なものだと考えてしまう。しかしこの気候観は、百年に満たない人生の中で、あるいは歴史記録を含めても、せいぜい数千年間の経験の蓄積の中で形成されたものであり、今回の講演で、過去数千年間の気候をより長い気候史の中で位置づけたとき、これが平均的な気候状態であるといえないことが解った。また過去数十万年間に渡る古気候変動の記録を調べると、気候変動因子にはまだ不明のものがあり、未来の気候を予想することは困難なことも解った。

21世紀に生きる人類一人一人は、地球環境を自分自身で考えなければならぬ時代であると感じさせられる講演であった。



講演される多田教授：平成24年9月26日（水）、千葉校舎第2教室

トピックス

■直井友紀さん（第2学年）が「第5回IBAF女子野球ワールドカップ」で史上初の3連覇に貢献

カナダ・エドモントンで開催された「第5回IBAF女子野球ワールドカップ」（平成24年8月10日（金）から19日（日））に第2学年 直井友紀（なおい ゆき）さんが参加し、史上初の3連覇に貢献した。

女子野球ワールドカップは、2004年から2年毎に開催されており、今回はカナダ・日本・米国・オーストラリア・台湾・キューバ・ベネズエラ・オランダの8カ国が参加した。直井さんは、代表選手20名に外野手部門として選出され、10試合のうち6試合に出場し、10打数4安打、2打点で、打率.400の好成績で、守備では捕手として2試合を守り抜いた。日頃は、千葉キャンパスで勉学に



同級生への優勝報告にて井出学長（左）より祝福を受ける直井さん（右）：平成24年9月7日（金）、千葉校舎第5教室



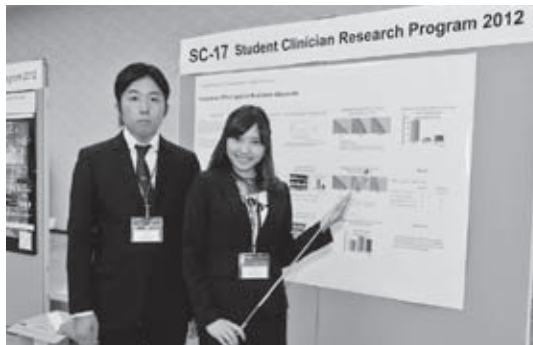
オーストラリア戦での直井さん：平成24年8月17日（金）、カナダ 「写真提供：日本女子野球協会」

勤しみながら、埼玉県に拠点を置く「侍」という女子硬式野球チームで練習をしている。

7月24日（火）、水道橋校舎の学長室で、井出吉信学長に約束した通り、見事優勝、そして、3連覇を成し遂げた。

■滝沢友里香さん（第4学年）がSCRP日本代表選抜大会入賞

平成24年度（第18回）日本歯科医師会/デンツプライ スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRP）日本代表選抜大会が平成24年8月17日（金） 歯科医師会館にて開催され、本学代表として出場した滝沢友里香さん（第4学年）が入賞した。SCRPは米国歯科医師会（ADA）主催により行われ、世界36ヶ国で開催されている。今年度のSCRP日本代表選抜大会には全国の歯学部から22校の参加があり、各大学で選ばれた学生による研究発表が行われた。滝沢さんは大会でスチューデント・クリニシャンとして、ファカルティーアドバイザーの四宮敬史助教、研究指導協力者の川口 充教授の指導の下、基礎部門にてポスター発表を行った。発表タイトルは「放射線粘膜炎に対するプロタミンの効果」で、頭頸部の放射線照射により生じた舌粘膜炎に対する低分子プロタミン（LMWP）の効果について、LMWPが傷害された粘膜に対して保護効果があることを調べたものである。審査の結果、入賞の表彰状、楯ならびに記念品が贈呈された。



入賞した滝沢さん（右）と四宮助教（左）：平成24年8月17日（金）、歯科医師会館

■見明康雄准教授・森口美津子講師 第21回硬組織再生生物学会学会賞を受賞

平成24年8月25日(土)に開催された第21回硬組織再生生物学会学術大会・総会において、口腔超微構造学講座の森口美津子講師と見明康雄准教授、新潟医療福祉大学の山田まりえ教授が“Hard Tissue Regenerative Biology Award”を受賞し、森口美津子講師が受賞講演を行った。本賞は平成23年度の“Journal of Hard Tissue Biology”に掲載された論文の中で、学術上優秀な業績であると認められる論文に対して贈られる賞であり、学術賞委員会の審議によって選考される。

受賞演題は“Immunolocalization of the factors related to Wnt signaling pathway in developing rat molar germ”であった。本研究は研究報告の少ない歯の発生の後期におけるWnt/ β -cateninシグナル伝達経路について、*in vivo*で免疫組織化学的に検索したものである。研究の結果、内エナメル上皮細胞からエナメル芽細胞、歯乳頭細胞から象牙芽細胞への分化にWnt10、Dvl、GSK-3 β 、 β -cateninを介するWnt/ β -catenin経路が関与し、さらにエナメル芽細胞と象牙芽細胞の分泌機能においても上記のWnt/ β -catenin経路の関与することが示された。

本研究はWntのシグナルが歯の発生後期においても各因子を介して β -cateninへ伝達されることを示しており、歯牙形成における他のシグナル伝達とのクロストークなどの複雑な伝達経路を解明する上で基礎となる研究であり、今後の研究の発展が期待されることが評価され、受賞に至った。



受賞した見明准教授(右)と森口講師(左)

■見明康雄准教授 第10回日本再生歯科医学会論文賞を受賞

平成24年9月1日(土)に神戸市で開催された第10回日本再生歯科医学会総会において、口腔超微構造学講座の見明康雄准教授が、日本再生歯科医学会論文賞を受賞した。論文表題は「歯肉縁上歯石の性差と加齢による形態と組成の変化」で、高知学園短期大学・三島弘幸教授、近森病院・徳弘将光先生、田中歯科医院・田中和夫先生、日宇歯科医院・大久保厚司先生との共同研究である。

本研究は、男女間の加齢変化に伴う歯石の組織構造及び組成変化を形態的・分析的に検索したものである。歯石の色調は男女ともに10代未満から50歳代では白色から灰色を呈し、60歳代以降は茶褐色が多く見られた。蛍光顕微鏡や偏光顕微鏡およびSEMによる歯石観察では、女性で明瞭な層状構造を呈していた。歯石内部には男女ともに球形の顆粒が多く見られ、高齢者では不定型な形を示すものが多かった。EPMA分析ではNa、Mg、P、Caが検出された。X線回折法で検出された結晶は主にHAであるが、加齢に伴いOCPやwhitlockiteが検出された。従って、歯石の形成は唾液の分泌物に関連しており、高齢者になる程、口腔細菌叢の変化、加齢に伴う疾患、薬の副作用などにより唾液分泌量が減少して唾液成分も変化するので口腔の微小環境が変動し、その色調、組成や結晶の変化および不定型な構造が観察されたものと考えられた。また、女性の場合、女性ホルモンの分泌リズムの変化により、層状構造が形成されたと推測される。

本論文は、日本再生歯科医学会誌9巻1号：31-39、2011に掲載されたもので、内容に優れ学会分野の研究を正に推進し、さらに電子ジャーナルの



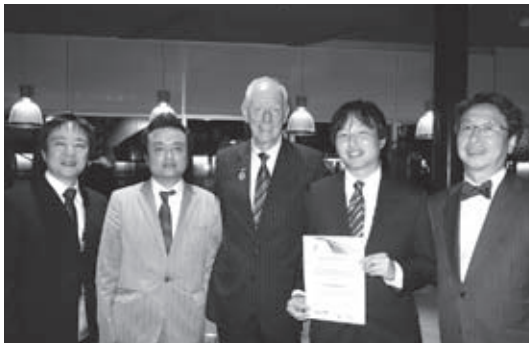
受賞した見明准教授

閲覧も多いことから論文賞候補として推薦され、理事会において承認され、総会で受賞に至った。

■山田裕介大学院生 ヨーロッパ補綴歯科学会で最優秀ポスター賞を受賞

平成24年9月6日(木)から8日(土)までオランダ・ロッテルダムにて第36回ヨーロッパ補綴歯科学会が、2012年度ヨーロッパ老年歯科医学会と共催で開催された。この大会で有床義歯補綴学講座の山田裕介大学院生が、最優秀ポスター賞を受賞した。同賞は、審査により104演題の中から1演題に与えられた。

受賞演題は「Staphylococcal attachment reduces on UVC-irradiated titanium by changing surface properties」であった。チタン表面への短波長領域の紫外線照射は、「光機能化」と呼ばれ、あらゆる表面チタンインプラントの骨結合能を著明に向上させる技術として注目されている。本研究は、チタン表面に短波長領域の紫外線を照射することで、創感染原因菌である黄色ブドウ球菌の初期付着抑制効果を示したものである。本研究は、インプラント手術後の感染予防という光機能化の新たな一面を示し、その科学性の高さとともに歯科補綴学の向上に寄与する可能性の高さが評価されたことから、今回の受賞に至った。



懇親会にて大会長から表彰を受ける演者と共同演者。(写真右より) 櫻井 薫教授、山田大学院生、Cees de Baat大会長、山田将博助教、上田貴之准教授：平成24年9月7日(金)、オランダ・ロッテルダム

■川口 充教授が第21回日本シェーグレン症候群学会学術集會に招へいされ講演

平成24年9月7日(金)京都で開催された、平成24年度第21回日本シェーグレン症候群学会学術集會(会長 三森経世教授：京都大学大学院医学

研究科内科学講座臨床免疫学)のイブニングセミナー『病態に深く迫るドライマウスとIgG4関連疾患』に、本学薬理学講座の川口 充教授が招かれて「生体統御システムにおけるデバイス機能を持つ唾液腺機能の役割と機能回復のための非ムスカリン性薬剤の必要性」の演題で講演を行った。

■黒田英孝大学院生 The 5th Annual Meeting of the Federation of Asian Dental Anesthesiology Societies (第5回アジア歯科麻酔学会連合)でFirst Prize of Oral Presentation for Younger Scholarを受賞

平成24年9月14日(金)から15日(土)に開催されたThe 5th Annual Meeting of the Federation of Asian Dental Anesthesiology Societies(西安市国際会議場、中華人民共和国)において、若手研究者優秀発表者表彰が開催され、全15演題の中から歯科麻酔学講座の黒田英孝大学院生が、First Prize of Oral Presentation for Younger Scholarを受賞し、賞状と副賞が贈呈された。

受賞演題は「Expression of Sodium-Calcium Exchangers in Rat Trigeminal Ganglion Neurons (ラット三叉神経節ニューロンにおける $\text{Na}^+\text{-Ca}^{2+}$ 交換体発現の検討)」である。三叉神経節ニューロンにおける $\text{Na}^+\text{-Ca}^{2+}$ 交換体に関する報告は少なく、未だ不明な点を残している。本研究は分子生物学的手法、電気生理学的手法を用いて、三叉神経節ニューロンにおける $\text{Na}^+\text{-Ca}^{2+}$ 交換体の発現、局在、神経生理学的役割を明らかにし、 $\text{Na}^+\text{-Ca}^{2+}$ 交換体が侵害受容性疼痛や神経因性疼痛の調節の一部を担っていることを明らかにしたものである。口演では参加者との熱心な討議が行われた。臨床



FADAS創設者でプレゼンターを務めた金子 讓理事長(左)、受賞した黒田大学院生(中央)と大会長 Li-Xian Xu教授(右)：平成24年9月15日(土)、西安市国際会議場

的研究発表が多いなか、臨床につながる基礎的な内容が高く評価され受賞に至った。受賞した黒田大学院生は今後この研究を発展させ、神経病理学的役割の解明を行いたいと抱負を語った。

■がんプロフェッショナル基盤推進プランがリレー・フォー・ライフ2012 in千葉に参加

平成24年9月15日(土)から16日(日)の2日間、八千代市総合運動公園でがん患者支援チャリティウォーク「リレー・フォー・ライフ2012 in千葉」に参加した。これはがん患者、家族、支援者が地域社会と協力してがんと闘うための絆を育むためのチャリティイベントである。共に歩き、語らうことで生きる勇気と希望を生み出すことを目的にアメリカで始まったイベントである。参加者は有志でチームを組み、リレー方式で患者さん(サバイバー)たちと共にグラウンドを24時間交代で歩



ウォーキングを楽しむ野口沙希レジデント(左)と吉田佳史大学院生(中央)、山本信治講師(右)：平成24年9月16日(日)、八千代市総合運動公園グラウンド

き続けた。その間会場では、バンド演奏やゲームなど、催し物が行われた。千葉県では今年で3回目の開催となる。東京歯科大学がんプロフェッショナル基盤推進プランでは、第1回目より本事業に参加して地域交流を図ってきた。本年はコーディネーター野村武史講師、がんプロ大学院生、大学院修了生ならびに市川総合病院口腔がんセンターのスタッフおよびオーラルメディスン・口腔外科学講座のスタッフ、そして市川総合病院事務が交代で24時間歩き続けた。この日は残暑も厳しく、昼間は炎天下でのウォーキングとなり、途中豪雨に見舞われもしたが各団体リタイアすることなく、9月16日(日)正午に完走を果たした。大変長い2日間であったが主催者側との意見交流もあり、がんプロフェッショナル基盤推進プランの目的の一つである、市民活動への参加にも合致し充実した活動内容であった。



無事完走を果たした参加者。リレー・フォー・ライフ2012 in千葉終了後の写真。：平成24年9月16日(日)、八千代市総合運動公園グラウンド

長期海外出張者報告

■口腔外科学講座 講師 澁井武夫

この度、平成23年8月1日より平成24年7月31日までの1年間、中国の北京大学口腔医学院に長期海外出張をさせていただきましたので、報告させていただきます。

同医学院は昭和16年に設立された国家重点施設であり、その目的は学生教育、高度専門臨床、歯科医学研究所の3つを一体としたものであります。過去に当講座と北京大学の間では平成15年と平成19年に崔念暉医師が(それぞれ1年間ずつ、合計2年間)、平成19年に王恩博医師が3ヶ月間当講座に留学、平成21年4月からの3ヶ月間は当講座に所属していた山本信治講師(現、口腔がんセンター)が北京大学に留学しております。そして平成21年の8月に本学と北京大学口腔医学院との間で姉妹校提携がなされ、その後の最初の留学が私となりました。

北京大学口腔医院は、歯科ユニット455台、病床数120床を有し、一日平均外来患者数は3,400人、年間平均入院患者数は4,500人と中国においてもトップクラスの規模を誇っています。この病院における口腔外科は「外来小手術」、「顎変形症」「唇顎口蓋裂」「外傷」、「腫瘍」の5部門に分かれており、私は「唇顎口蓋裂」を主として勤務いたしました。私の指導医は北京大学口腔医院唇顎口蓋裂センター長、中国口蓋裂学会会長でもある馬蓮教授でした。馬蓮教授は平成3年から平成8年までイギリスにおいて唇顎口蓋裂の治療を学び、中国に帰国後はその知識と技術を生かして治療を行い、その良好な手術成績は患者の評判となっており、広大な中国の東側半分から患者が北京大学に集まっております。口蓋裂関連の手術は少ない日で3件、多い日で8件程度を行ってまいりました。私はこの1年間で唇顎口蓋裂関連の手術だけで674例(口唇一次形成術149例、口蓋一次形成術203例、顎裂部骨移植術93例など)の手術を経験することができました。このような大変多くの経験を短時間で積むことは現在の日本においては不可能であり、大変有意義なものでありました。

北京大学の歯科医学教育システムに関しては中国の多くの医学部が5年制であるのに対して北京大学口腔医学院だけは8年制であり、卒業すると

医師免許の取得(国家試験に合格する必要はありますが)と同時に博士号も取得することができます。医師の資格が歯科、医科に分かれていない一元制のため大学入学時に全員医学生として入学し、第1-2学年時に一般教養を、第3-4学年時に基礎医学を学びます。第5学年進級時に医科もしくは歯科の選択が求められ、歯科を選択した場合には第5学年で歯科の専門講義(主として座学)、第6学年でファントム等を使用した臨床基礎実習、第7学年で病院実習(歯科全科)、第8学年で博士号論文を提出するための専門科に所属し、臨床ならびに研究を行うといったシステムでありました。

今回、長期海外出張をさせていただいたことにより唇顎口蓋裂の手術手技や学生の教育システムを学んだだけでなく中国人の考え方、文化を学ぶことができ、たくさんの友人を作ることができました。今後は更なる医学的な知識と技術の向上だけでなく、今回の貴重な経験をいかに後進の医局員や学生に伝えることができるかを考えたいと思います。



北京大学口腔医院前にて



北京大学のスタッフとともに(前列中央の女性が馬蓮教授)

最後に長期海外出張に参加する貴重な機会を与えて下さいました御関係の諸先生方をはじめ、さ

まざまなご助言を頂きました数多くの先生方に感謝申し上げます。

国際渉外部レポート

■井出吉信学長 モスクワ国立医科歯科大学90周年記念式典、第9回全ロシア歯科会議への出席とモスクワ国立医科歯科大学姉妹校調印式(延長)のため訪露

モスクワ国立医科歯科大学90周年記念式典、第9回全ロシア歯科会議への出席とモスクワ国立医科歯科大学姉妹校調印式(延長)のため、井出吉信学長と学長随員として私佐藤 亨が平成24年9月19日(水)朝、モスクワに向かった。

20日(木)朝、House of Union で開催される第9回全ロシア歯科会議に出席した。この会議では、ロシア保健大臣の挨拶の他、モスクワ国立医科歯科大学総長O.Janushevich教授による現在のロシアにおける歯科事情についての基調講演が行われた。

夕刻よりルジニキ国立コンサートホール“ロシア”で開催されたモスクワ国立医科歯科大学90周年記念式典に出席した。この記念式典では、歯科に対する貢献と今後への期待が認められたO.Janushevich総長が政府より勲章を授与されたことも併せて祝う会で、約1,000人が出席していた。この会の中、井出吉信学長、スイス・ジュネーブ大学J.Bernard 副学長、イスラエル・Hebrew大学A.Stabholz学長と私が紹介された。セレモ



第9回全ロシア歯科会議に出席したのちの写真、井出学長(左から3番目)、イスラエル・Hebrew大学A.Stabholz学長夫妻(左から5,6番目)、モスクワ医科歯科大学Rabinovich教授(左から7番目)、スイス・ジュネーブ大学J.Bernard 副学長夫妻(左から8,9番目)：平成24年9月20日(木)、House of Union

ニーは約2時間続き、その後上階のホールで懇親会が開催された。

21日(金)は朝9時からモスクワ国立医科歯科大学で、O.Janushevich総長、V.Elena副総長出席のもと姉妹校継続の調印式を行った。その席での90年を機に、モスクワ国立医科歯科大学は今後3つのキャンパスを作り、研究、教育、診療に大きく飛躍したいとの話があった。それと共に東京歯科大学とは姉妹校として今後共通のテーマを双方で研究していきたいとの提案がなされた。夕刻には招待教授全員でバレエ“ジゼル”鑑賞をした。

23日(日)夕刻、モスクワ・ドモジェドヴォ空港をたち、帰国の途に就いた。

(学長随員 佐藤 亨)



90周年記念式典会場：平成24年9月20日(木)、ルジニキ国立コンサートホール“ロシア”



O.Janushevich総長、V.Elena 副総長(左から2番目、4番目)出席のもと姉妹校継続の調印式：平成24年9月21日(金)、モスクワ国立医科歯科大学

学生会ニュース

■自動車部 サマーフェスタ2012に出場

平成24年8月8日(水)・9日(木)に筑波サーキットにてサマーフェスティバル2012が開催された。本学からの出場者は小野瀬祐紀君(4年)、谷本雄輝君(3年)、在原 瑛君、家崎憲博君、加藤孝実君、根本悠平君、山川允仁君(1年)の7名だった。

競技種目は1日目にジムカーナ、2日目はサーキット本コースで行われた。初日の結果は根本君が3位、谷本君が6位、新人賞は根本君が優勝、在原君が準優勝という結果だった。

2日目のサーキットは、車両の性能上、本コースを走るには厳しいとのこと、他大学を含め欠場し、OBの先生方や一般の方の出場となった。しかし、パレード走行であれば可能とのことだったので、代表して谷本君が本コースを走行した。

次回の連盟戦は、11月23日(金)に富士スピードウェイでジムカーナが開催されることが決定しており、部員一同全力を尽くして頑張りたいと力強く宣言してくれた。



サマーフェスタ2012で激走した自動車部員:平成24年8月9日(木)、筑波サーキット・茨城県

■延世大学校歯科大学との学生交流

延世大学校歯科大学との学生交流は、今年25回目を迎えた。平成24年8月20日(月)から8月24日(金)までの4泊5日の日程で本学から11名の代表学生が参加した。

学生の代表メンバーは、学生会歯科学生交流会局長の濱田真衣(4年)をはじめ、釘宮嘉浩(4年)、石彩記子(3年)、亀谷 愛(3年)、河角久美子(3年)、根東 愛(3年)、酒井美貴(2年)、相磯友里(1年)、小林奈菜美(1年)、島村 唯(1年)、原田愛聖(1年)で構成された。

成田空港で、学生副学長HeeJin Kimをはじめ2名の教職員と14名の参加学生を出迎えた。学生たちは1年ぶりに出会う懐かしい顔に笑顔で話しかけたり、手を取り合って喜ぶ姿が見られた。

本学千葉校舎へ到着すると歓迎式が行われ、井出吉信学長から歓迎の挨拶、HeeJin Kim学生副学長から来訪の挨拶を頂き、濱田真衣学生会交流会局長、Joohyun Kang学生局長が両校学生代表の挨拶を行った。

歓迎式終了後に、本学解剖学講座 坂 英樹准教授から特別講演が実施された。第1回目の交流会に参加したご自身の体験談等を交えた話が語られた。

その後、学生会議(医療班)が行われ両国の保険制度の仕組みや、診療報酬点数制度についての意見交換がされた。

午後6時からはホテルグリーンタワー幕張で、学長主催の歓迎夕食会が開催された。夕食会中頃には、本学学生がカクテルのパフォーマンスを披露したりと大いに盛り上がった。

2日目は、午前中に井上健児、大平貴士大学院生による特別講演に始まり、その後2回目の学生会議(文化班)を行った。日本のドラマが韓国をはじめアジアでリメイクされていることについて、若者の価値観や恋愛観などについて話し合った。

午後からは、各班に分かれて都内観光に出かけ、夜は学生、教職員ともに月島の人気「もんじゃ焼き」店に集い、両校学生とも慣れない手つきでもんじゃ焼きを仲良く調理している光景が微笑ましかった。



学生会議(医療班)で韓国の医療事情の説明を受ける本学学生:平成24年8月20日(月)、千葉校舎第1会議室

3日目・4日目は、東京ディズニーランドや今年開業した東京スカイツリー、浅草など思う存分満喫し、最終日の夜は、船橋のサッポロビール園に教職員・学生の全員が集合して懇親を深めた。

5日目の最終日は、午前11時から千葉校舎で歓送式が行われ、井出学長から歓送の挨拶と延世大学と教職員に記念品が贈呈された。

歓送式終了後、民族衣装に着替えた延世の学生と記念写真を撮ったり、寄せ書きにサインをしたりと時間を過ごしてから成田空港へと向かった。途中、ショッピングモールに立ち寄り昼食と買い物を買った。

成田空港に到着すると学生たちは思い思いの時間を過ごし、入国検査を受けた後も名残惜しくガラス越しに手を振っていた。

見送りを終えた学生は、寂しさと充実した5日間を過ごせた安堵の表情を浮かべていた。



学長主催の歓迎夕食会で親睦を深める：平成24年8月20日（月）、ホテルグリーンタワー幕張

〔延世大学交流会を終えて〕

学生会歯科学生交流会局長 濱田真衣（4年）

交流会は今年で四半世紀、25周年を迎えました。この記念すべき年に、局長という大役ができ大変嬉しく思います。この交流会は学生部を主体に構成されていますが、国際渉外部の方を始めとする教職員の皆様、そしてOBの先生方、学生メンバーみんなの協力があってこそこの交流会です。大きな怪我もなく、無事5日間過ごすことができ、そして力不足であった私に大きなサポートをくださった皆さんに本当に感謝をしたいと思います。本当にありがとうございました。

この交流会ではお互いの文化・風習を身近に感じることができるのですが、局長という立場だからこそわかることも多くありました。日本と韓国という文化、風習がまったく違う団体をまとめるのは難しく、正直困惑することもありました。し



延世大学の学生にもんじゃ焼きを振る舞う本学学生：平成24年8月21日（火）、月島・東京都



歓迎式典後全員での記念写真：平成24年8月20日（月）、千葉校舎第1会議室

かし、この場で得られるものはとても多く、韓国だけではなく世界に目を向ける良いきっかけとなりました。卒後の進路として、海外も検討しようと思っています。

最後になりますが、この交流会が国交と関係なく、続いていくことを願っています。4年間という短い期間でしたが、参加できたことに大変嬉しく思います。本当にありがとうございました。

■第44回歯学体報告会

第44回歯学体報告会が、平成24年9月14日(金)午後6時から厚生棟1階食堂で行われた。今年は総合4位となり、各クラブの健闘が光った。

開会の言葉、20参加部門各クラブ主将からの挨拶に引き続き、渡辺知明歯学体評議員から「歯学体総合第4位の成績を収めました。」と井出吉信学長に報告がなされた。

井出学長から「猛暑の中、各クラブの健闘を称えた労いの言葉と、来年は今年より一つでも順位を上げるよう激励の言葉」を祝辞として頂き、優勝・準優勝を成し遂げた3クラブに学長賞が手渡された。

続いて入賞・ポイントを獲得した3位以下のクラブに父兄会賞が父兄会長代理として佐藤 亨学生部長から授与された。

また、矢崎秀昭同窓会会長から、各クラブを代表して渡辺歯学体評議員と第5回IBAF女子野球ワールドカップにマドンナジャパンの日本代表として出場した直井友紀さん(2年)に同窓会賞として金一封が手渡された。

引き続き矢崎同窓会会長の乾杯の発声と同時に会食が始まり、あっという間にテーブルに並べられて料理が無くなり、宴たけなわの中盛會裡に無

事を終了した。



井出学長から「学長賞」を受け取る硬式庭球部員：平成24年9月14日(金)、千葉校舎厚生棟1階食堂



第5回女子野球ワールドカップで優勝し、矢崎同窓会会長から「同窓会賞」を受け取る直井さん：平成24年9月14日(金)、千葉校舎厚生棟1階食堂



女子団体が優勝した女子ゴルフ部員：平成24年9月14日(金)、千葉校舎厚生棟1階食堂



歯学体参加学生に「祝辞」を述べる井出学長：平成24年9月14日(金)、千葉校舎厚生棟1階食堂

図書館から

■rliaisonプロジェクトワークショップ開催

平成24年9月11日(火)水道橋本館13階B教室にて、rliaisonプロジェクトワークショップが開催された。主催はデジタルリポジトリ連合rliaisonプロジェクト(小樽商科大学ほか4大学)、共催は本学であった。rliaisonプロジェクトは著作論文を機関リポジトリに登録するよう働きかける「意識喚起」、



rliaisonプロジェクトワークショップ開催風景：平成24年9月11日(火)、水道橋校舎13階B教室

著作論文を必ず登録するよう義務付ける「制度構築」について、実践的に取り組み、情報共有・意見交換することを目的としている。当日は全国より約40名の参加があり、学術雑誌論文公開促進におけるふたつのアプローチの両側面から事例報告がされた後に、フロア、パネリスト、各セッションの座長兼発表者である、土屋 俊氏(大学評価・学位授与機構)、竹内比呂也氏(千葉大学)を交えて、図書館スタッフの果たすべき役割、学術情報流通の今後などについて議論をした。

■移転準備について

平成24年7月10日(火)教授会で各講座へ専門図書選択の依頼をした。7月下旬～8月上旬に各講座、研究室より先生方にお越しいただき、新館及び千葉に配置する図書の選択作業を実施し、移転の準備を進めている。

歯科衛生士校ニュース

■歯科衛生士専門学校学校説明会開催

平成25年度の東京歯科大学歯科衛生士専門学校への入学希望者を対象とした学校説明会が、平成24年6月16日(土)午前、および7月26日(木)午前・午後の2部と8月28日(火)午前に行われた。

この説明会は、歯科衛生士という職業と本校の特徴を理解してもらい、できるだけ多くの受験生を募る目的で、実施しているものである。6月の第1回目には38名の志願予定者と14名の保護者の参加、7月の第2回目には午前の部は40名の志願予定者と25名の保護者、午後の部は43名の志願予定者と25名の保護者の参加があり、8月の第3回目には52名の志願予定者と25名の保護者の参加があった。総参加者数は173名の志願予定者と89名の保護者(総計：262名)であり、昨年と同時期に行った学校説明会と比べて80名ほど参加者が増加した。本校では社会人特別選抜枠を設けていることから、その内13名の社会人の参加もみられた。

説明会では、歯科衛生士の職務・将来性、本校の特色、学生生活などについてスライドを交えて

紹介した後、3年生の学生たちによる最新の設備を用いた臨床基礎実習のデモンストレーションを行った。ついで学生たちとともに、大学の各施設、千葉病院を見学し、本学が歯科大学に併設されていることのメリットや充実した設備と講師陣、3年制によるレベルの高い教育と、本年度の卒業生が、大学病院あるいは総合病院、事業所等へ就職したことなどを伝え、参加者の入学の意欲を高めることができたと感じられた。

志願予定者の質問を個別に受けるため、学校説明会終了後に入学試験やカリキュラム、学校生活、学費・奨学金、歯科衛生士の業務・授業内容、在校生との交流など、各ブースに分かれて相談会を開催し細かな対応を行った。

学校説明会終了後のアンケートでは、実際の学校施設を見学すると共に講師や学生と接することができたことで、学校の雰囲気がよくわかり参加して良かったとの意見が多く聞かれた。

■歯科衛生士専門学校名誉講師称号記授与式

東京歯科大学歯科衛生士専門学校教員会の推薦により、榎石武美先生に歯科衛生士専門学校の名誉講師の称号が授与された。榎石先生は、昭和51年4月1日から昭和52年3月31日まで1年間学生副部長、昭和52年4月1日から昭和56年3月31日まで4年間教務副部長、昭和56年4月1日から昭和58年5月31日まで2年2ヶ月間主事、昭和58年6月1日から平成元年5月31日まで6年間教務部長を務め本学の運営にご尽力された。また、昭和52年4月から昭和53年3月まで社会保険歯科正講師を1年間、昭和62年4月から平成24年3月まで歯科臨床概論正講師を25年間務められ、長年にわたって歯科衛生士教育に多大なるご尽力をいただいた。

名誉講師称号記授与式は、41名の教員の出席のもと、平成24年9月18日（火）午後5時30分より石井拓男校長より、榎石先生の学生たちへの信頼と情熱溢れる講義、歯科衛生士教育への長年の功績に対する賞賛が述べられ、続いて井出吉信学長より先生の長年のご苦勞を慰勞されるご挨拶をいただいた。その後、石井校長より名誉講師称号

記が授与された。挨拶に立たれた榎石先生から謝辞が述べられるとともに、心に残る思い出も多かったことなど、充実した教育の時間を振り返ってお話をされた。続いて、第1会議室横ロビー（血脇守之助先生胸像前）での記念写真の撮影が行われた。



挨拶をされる榎石先生：平成24年9月18日（火）、千葉校舎第1会議室



名誉講師称号記授与式後の記念写真：平成24年9月18日（火）、第1会議室横ロビー（血脇守之助先生胸像前）

人物往来

■国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

- 取手歯科衛生専門学校(学生19名、教員3名)
平成24年8月31日(金)解剖学実習室、千葉病院見学
- 東京歯科衛生専門学校(学生80名)
平成24年9月11日(火)解剖学実習室、千葉病院見学
- 自衛隊中央病院(看護学生60名、教員2名)
平成24年9月19日(水)解剖学教室、解剖標本室見学
- 太陽歯科衛生士専門学校(学生70名、教員2名)
平成24年9月26日(水)口腔衛生学基礎実習見学
- 茨城歯科専門学校(学生54名、教員2名)
平成24年9月27日(木)解剖学教室、千葉病院見学

■海外出張

- 佐藤 亨教授(クラウンブリッジ補綴学)
ボストン大学にて会議および、AAED (American Academy of Esthetic Dentistry) 第37回学術大会に招待参加のため、平成24年8月4日(土)から12日(日)までアメリカ・ボストン、ネイブルズへ出張。
- ピッセン弘子教授(水病・眼科)
Australian Society of Cataract and Refractive Surgery (オーストラリア白内障屈折矯正手術学会) に出席、および講演のため、平成24年8月8日(水)から12日(日)まで、ニュージーランド・クィーンズタウンへ出張。
- 阿部伸一教授(解剖学)
台北医学大学口腔医学院において学部学生1～3年生計6名のElective Study 引率のため、平成24年8月18日(土)から24日(金)まで台湾・台北へ出張。
- 丸茂 健教授(水病・泌尿器科)
第11回アジア泌尿器科学会 (11th Asian Congress of Urology) に出席、および発表のため、平成24年8月22日(水)から26日(日)まで、タイ・パタヤへ出張。
- 山本将仁大学院生(解剖学)
コンプルテンセ大学 解剖学教室との共同研究のため、平成24年8月25日(土)から9月2日(日)までスペイン・マドリッドへ出張。
- 井上 孝教授(臨床検査病理学)
第100回FDI年次世界歯科大会にFDI教育委員会委員として参加するため、平成24年8月27日(月)から9月1日(土)まで香港へ出張。
- 松久保 隆教授、石塚洋一助教(衛生学)
延世大学歯学部予防歯科学講座訪問、研究打合せおよび実験のため、松久保 隆教授は平成24年8月28日(火)から8月30日(木)まで、石塚洋一助教

は平成24年8月28日(火)から9月3日(月)まで韓国・ソウルへ出張。

- 篠崎尚史講師・センター長(角膜センター)
WHO-ICCBBAによる国際標準コーディングシステムISBT128の採択や進捗状況に関する会議に出席するため、平成24年8月28日(火)から9月2日(日)までスイス・ジュネーブへ出張。
- 櫻井 薫教授(有床義歯補綴学)
第36回ヨーロッパ補綴歯科学会学術大会 (The 36th Annual Conference of the European Prosthodontic Association) に参加、および発表のため、平成24年9月4日(火)から10日(月)までオランダ・ロッテルダムへ出張。
- 上田貴之准教授、竜 正大助教、山田将博助教、添田亮平助教(有床義歯補綴学)
第36回ヨーロッパ補綴歯科学会学術大会 (The 36th Annual Conference of the European Prosthodontic Association) に参加、および発表のため、平成24年9月3日(月)から10日(月)までオランダ・ロッテルダムへ出張。
- 辻 将大学院生、山田裕介大学院生、内山 宙大学院生(有床義歯補綴学)
第36回ヨーロッパ補綴歯科学会学術大会 (The 36th Annual Conference of the European Prosthodontic Association) に参加、発表のため、平成24年9月3日(月)から10日(月)までオランダ・ロッテルダムへ出張。
- 穴澤卯圭准教授(水病・整形外科)
9th Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society Meeting 2012 (APMSTS) に出席、および発表のため平成24年9月6日(木)から10日(月)までマレーシア・クアラルンプールへ出張。
- ピッセン弘子教授、吉野真未助教、大木伸一視能訓練士、大島キャサリン事務員、南慶一郎非常勤講師(水病・眼科)
ESCRS (European Society of Cataract and Refractive Surgeons) ヨーロッパ白内障屈折矯正手術学会に出席、および発表のため、ピッセン弘子教授は平成24年9月7日(金)から12日(水)まで、吉野真未助教、大木伸一視能訓練士は平成24年9月7日(金)から13日(木)まで、大島キャサリン事務員、南慶一郎非常勤講師は平成24年9月7日(金)から14日(金)までイタリア・ミラノへ出張。
- 許斐健二講師(水病・眼科)
European Society of Cataract and Refractive Surgeons XXX congress of the ESCRS に参加、および発表のため平成24年9月7日(金)から12日(水)までイタリア・ミラノへ出張。
- 佐藤絵美子大学院生 (オーラルメディスン・口腔外科学)

- European Society for Clinical Nutrition and Metabolism (ESPEN)34th ESPEN Congressに参加、および発表のため平成24年9月7日(金)から15日(土)までスペイン・バルセロナへ出張。
- 片倉 朗教授(オーラルメディスン・口腔外科学)
94th American Association of Oral and Maxillofacial Surgeons (AAOMS)に参加、および共同発表、発表指導のため平成24年9月11日(火)から15日(土)までアメリカ・サンディエゴへ出張。
- 大石晶子大学院生(オーラルメディスン・口腔外科学)
94th American Association of Oral and Maxillofacial Surgeons (AAOMS)に参加、および発表のため平成24年9月9日(日)から16日(日)までアメリカ・サンディエゴへ出張。
- 神尾 崇助教(歯科放射線学)
9th Asian Congress of Oral and Maxillofacial Radiologyに参加、および発表のため平成24年9月13日(木)から16日(日)まで中国・西安へ出張。
- 松木由起子助教、黒田英孝大学院生(歯科麻酔学)
The 5th Annual Meeting of the Federation of Asian Dental Anesthesiology Societiesに出席、および発表のため平成24年9月13日(木)から17日(月)まで中国・西安へ出張。
- 内山健志教授(口腔外科学)
10th Chinese National Conference on Oral and Maxillofacial Surgeryに招待講演のため平成24年9月14日(金)から17日(月)まで中国・西安へ出張。
- 澁井武夫助教(口腔外科学)
第14回中国口腔医学学会会議に参加のため平成24年9月14日(金)から17日(月)まで中国・西安へ出張。
- 佐野 司教授(歯科放射線学)
大学院Elective Study(鹿児島大学・東京歯科大学共催海外研修基礎コースin カリフォルニア)に引率指導教員として参加するため平成24年9月15

- 日(土)から22日(土)までアメリカ・カリフォルニアへ出張。
- 井出吉信学長、佐藤 亨教授(クラウンブリッジ補綴学)
モスクワ国立医科歯科大学 創立90年記念式典に出席するため(佐藤教授は学長随行)、平成24年9月19日(水)から24日(月)までロシア・モスクワへ出張。
- 堀田 拓講師(市病・整形外科)
第10回ヨーロッパ股関節学会(European Hip Society 10th Congress)に参加、および発表のため平成24年9月19日(水)から24日(月)までイタリア・ミラノへ出張。
- 斎藤 淳教授(歯周病学)、澁川義宏准教授、早川裕記助教(水病・口腔健康臨床科学)
第98回アメリカ歯周病学会共催日本歯周病学会2012大会(2012 AAP-JSP)に出席、および発表のため平成24年9月28日(金)から10月4日(木)までアメリカ・ロサンゼルスへ出張。
- 太田幹夫講師、勢島 典助教(歯周病学)
第98回アメリカ歯周病学会共催日本歯周病学会2012大会(2012 AAP-JSP)に出席のため平成24年9月28日(金)から10月4日(木)までアメリカ・ロサンゼルスへ出張。
- 今村健太郎大学院生(歯周病学)
第98回アメリカ歯周病学会共催日本歯周病学会2012大会(2012 AAP-JSP)に出席、および発表のため平成24年9月28日(金)から10月4日(木)までアメリカ・ロサンゼルスへ出張。
- 小田 豊教授(歯科理工学)
第48回ISO/TC106パリ会議に日本SC議長、ならびに日本WG議長として出席のため平成24年9月29日(土)から10月8日(月)までフランス・パリへ出張。

大学日誌

平成24年8月

- 1 (水) 第44回全日本歯科学学生総合体育大会
[競技: 7/29 ~ 8/13][事務主管: 鹿児島大学歯学部]
リスクマネージメント部会
ICT会議
防火・防災安全自主点検日
糖尿病ケアチームカンファレンス(市病)
- 2 (木) 感染制御委員会(市病)
管理診療委員会(市病)
- 4 (土) 臨床研修歯科医説明会(他大学出身者対象)
(水病)
- 6 (月) 臨床研修管理小部会
- 8 (水) リスクマネージメント部会(水病)

- 9 (木) 午後のリサイクル(市病)
- 10 (金) ICT委員会(市病)
- 11 (土) CT用電気工事の為一部停電(本館1 ~ 2F、3F 高機能診、4F 口外診、6F、13F)(水病)
- 13 (月) 病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
- 15 (水) 環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
CPC(市病)
- 16 (木) 業務連絡会
第1回医科臨床研修医選考試験(市病)
- 17 (金) 教育WS『学生サポート体制の構築』作業部会

- | | |
|--|---|
| 18 (土) 患者サロン(市病) | 12 (水) 大学院研究科委員会 |
| 20 (月) 延世大学校歯科大学との学生交流プログラム
(～8/24)
医局長会
機器等安全自主点検日 | 褥瘡対策委員会(市病)
リスクマネージメント部会(水病)
薬事委員会(水病)
臨床検査室委員会(水病)
医薬品安全管理委員会(水病) |
| 21 (火) 医療安全管理委員会(市病) | 13 (木) カルテ指導委員会 |
| 22 (水) 褥瘡対策委員会(市病) | 業務連絡会
教養科目協議会
高度・先進医療委員会 |
| 24 (金) 教育WS『水道橋移転に伴うコミュニケー
ション学の検討』作業部会
災害対策実施部会(市病) | ICLS講習会(市病)
手術室運営委員会(市病) |
| 25 (土) 入試ガイダンス[於：水道橋校舎] | 14 (金) 1～4年生前期授業終了 |
| 27 (月) NSTカンファレンス(市病)
電子カルテシステム運用管理委員会(市病) | 感染予防対策チーム委員会(水病) |
| 28 (火) 歯科衛生士専門学校学校説明会 | 15 (土) 歯科衛生士専門学校創立記念日 |
| 30 (木) 教育ワークショップ(報告会)
第2回医科臨床研修医選考試験(市病) | 18 (火) 臨床教授連絡会
全体教授会
人事委員会
歯科衛生士専門学校1・2年生前期試験[～
27日]
歯科衛生士専門学校教員会・名誉講師称号
記授与式
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日 |
| 31 (金) 1～4年生夏期休暇終了
教務部(課)事務連絡会 | 19 (水) 衛生委員会
輸血療法委員会(市病)
CPC(市病) |
| 平成24年9月 | 20 (木) 1・3・4年生前期定期試験[～28日]
2年生前期定期試験[～27日]
千葉校舎課長会
第357回大学院セミナー
歯科衛生士専門学校臨地実習指導者連絡会
機器等安全自主点検日
部長会(市病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
医療連携プロジェクト委員会(水病)
科長会(水病) |
| 1 (土) 5年生第1回総合学力試験 | 21 (金) 図書委員会
第358回大学院セミナー |
| 3 (月) 1～4年生授業再開
6年生第2回総合学力試験[～4日]
臨床研修管理小部会
歯科衛生士専門学校1・2年生授業再開
防火・防災安全自主点検日 | 24 (月) 医療連携委員会
第115回歯科医学教育セミナー
電子カルテシステム運用管理委員会(市病)
NSTカンファレンス(市病)
教職員研修会(水病) |
| 4 (火) 薬事委員会(市病) | 25 (火) 薬事委員会
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
歯科衛生士専門学校3年生前期試験[～26
日] |
| 5 (水) リスクマネージメント部会
ICT会議
輸血療法委員会
臨床検査部運営委員会
口腔がんセンター会議(市病)
口腔がんセンター運営会議(市病)
臨床検査運営委員会(市病)
口腔健康臨床科学講座会(水病) | 26 (水) 糖尿病ケアチームカンファレンス(市病)
衛生委員会(水病)
データ管理者会議(水病)
病院連絡協議会(水病)
診療録管理委員会(水病) |
| 6 (木) 第356回大学院セミナー
感染制御委員会(市病)
ICT委員会(市病)
診療録指導委員会(水病) | |
| 7 (金) 第4学年HBワクチン接種 | |
| 9 (日) 平成25年度臨床研修歯科医選考[於：千葉
校舎] | |
| 10 (月) 臨床教育委員会
教養科目担当者懇談会
防災訓練(市病)
地域連携委員会(市病)
医療安全管理委員会(市病) | |
| 11 (火) 病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
医局長会
医療安全研修会
総合講義検討委員会
歯科衛生士専門学校臨床実習委員会 | |
| 12 (水) 基礎教授連絡会
大学院運営委員会 | |

26 (水) 第359回大学院セミナー
27 (木) 情報システム管理委員会
院内巡視(市病)
管理診療委員会(市病)

28 (金) 災害対策実施部会(市病)
29 (土) 第30回カリキュラム研修ワークショップ
[~30日][於:TDCビル]
30 (日) 入試ガイダンス[於:水道橋校舎]

平成25年度東京歯科大学大学院歯学研究科 (博士課程) 学 生 募 集 要 項

○募集人員 歯学専攻34名

〔社会人特別選抜(若干名)
口腔がん研究を臨床に活かせる専門歯科医師養成コース
がん治療支持療法のための歯科医師養成コース を含む〕

○入学願書受付期間

第Ⅰ期 平成24年10月1日(月)~平成24年11月26日(月)まで

第Ⅱ期 平成25年1月15日(火)~平成25年2月22日(金)まで

○試験科目

・一般

・口腔がん研究を臨床に活かせる専門歯科医師養成コース

・がん治療支持療法のための歯科医師養成コース

1) 外国語(英語:辞書(電子辞書)の持込み可)

2) 専攻主科目試験および面接

・社会人

1) 外国語(英語:辞書(電子辞書)の持込み可)

2) 口頭試問(面接)(提出書類の審査によって社会人としての業務歴または研究内容、基礎学力の評価を総合的に判断し選考する)

3) 専攻主科目試験および面接

※社会人特別選抜については、原則として基礎系講座・研究室のみを志望できる。

○選考日・選考会場

第Ⅰ期 平成24年12月1日(土) 東京歯科大学 千葉校舎

第Ⅱ期 平成25年3月2日(土) 東京歯科大学 千葉校舎

○合格者発表

第Ⅰ期 平成24年12月7日(金) 正午 ホームページにて発表

第Ⅱ期 平成25年3月8日(金) 正午 ホームページにて発表

○学 費

入 学 金 300,000円

授 業 料 600,000円

学生会費 2,000円

施設維持費 100,000円(入学当初のみ)ただし、本学を卒業した者からは徴収しない。

※受験資格(一般)

1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。

平成18年4月以降に歯科医師免許を取得した(する)者は、原則として1年以上の歯科医師臨床研修を修了していること。

2) 1)と同等以上の学力があると認められた者。

※受験資格(社会人)

開業医、大学、研究所の勤務医・教員・研究者等として原則2年以上の経験を有し、入学後もその身分を有する者で、以下の資格を満たしている者。

1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。

2) 1)と同等以上の学力があると認められた者。

東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充 (委員長)

石塚順子 井上直記 上田貴之 内田篤志 王子田 啓 狩野龍二 椎名 裕
新谷益朗 高橋俊之 武本 桂 中村弘明 日塔慶吉 旗手重雅 古澤成博
前田健一郎 百崎和浩 山本祐樹
(平成24年9月現在)



編集後記

紙面を埋めた写真の中で、夏の主役達の笑顔と真剣なまなざしが光っています。

Elective Study のメンバーに選ばれ、カナダの University of Alberta に出かけた7名と、姉妹校の台北医学大学で研修を受けた6名の学生達。国や言葉や環境は違っても、同じDentistを目指す仲間として、その場所の空気と同じ時間を共有することで、つながり合える何かを見つけたことでしょうか。これから、どんな学生達がElective Study にチャレンジしていくのか楽しみです。

そして、四半世紀を迎えた延世大学校歯科大学との学生交流。国を超えての25年間の交流を経て、両校の中では、見えない壁がいつの間にか溶けてしまっているのではないのでしょうか。お互いを理解するために、一緒に食事をし、目を見て語りあい、同じ体験を共有することの大切さをあらためて感じます。培ってきた国際交流の芽は、姉妹校継続の調印式を行ったモスクワ国立医科歯科大学をはじめ、世界のあちこちに広がっていくのでしょうか。学生交流会局長・濱田真衣さんの「この交流会が国交と関係なく続いていくことを願う。」という言葉が響きます。

356名の学生達が戦った夏の第44回全日本歯科学生総合体育大会。総合優勝を果たした水泳部と硬式庭球部。総合準優勝の硬式野球部をはじめ、さまざまなクラブでの個人の優勝や準優勝。机の上のペーパー試験では知ることの出来ない、本当にたくさんの方の個性とそれぞれが持つ素晴らしい能力があるのですね。この頑張りと思いがあれば、どんな壁もきっと越えられる…。

素晴らしいニュースでした。世界でたった20個のGold medal。そのひとつが、2年生の直井友紀さんの胸に輝きました。IBAF・女子野球ワールドカップ三連覇。背番号17・捕手・打率.400。歯科医の道を選んだことで、一度は胸の奥に仕舞った思いを、諦めないで続けることで勝ち取った世界一です。授業が終わると地元、埼玉のグラウンドまで飛んで帰り、陽が落ちてからも、見えない中で白い球を追い続けてつかみ取った、カナダ・エドモントンへの道。厳しい学業との両立は、さぞ大変なことだったのではないのでしょうか。諦めないで自分の可能性を信じて続けること。それは、自分の人生を主役で生きることなのではないでしょうか。その中で掴んだものこそ、本当の金メダルなのかもしれません。

ページに刻まれた、一枚一枚の白黒写真の向うには、カラフルな夏の時間が流れています。

(広報・公開講座部長：橋本貞充)



「直井さんの胸に光った、世界に20個だけの輝き…。
女子野球ワールドカップ三連覇。」



「さいかち坂校舎の礎石に、さいかち 巨角の木のある坂の上から、
眼下の街が映ります。」